

新潟県

公民館月報

昭和54年2月号

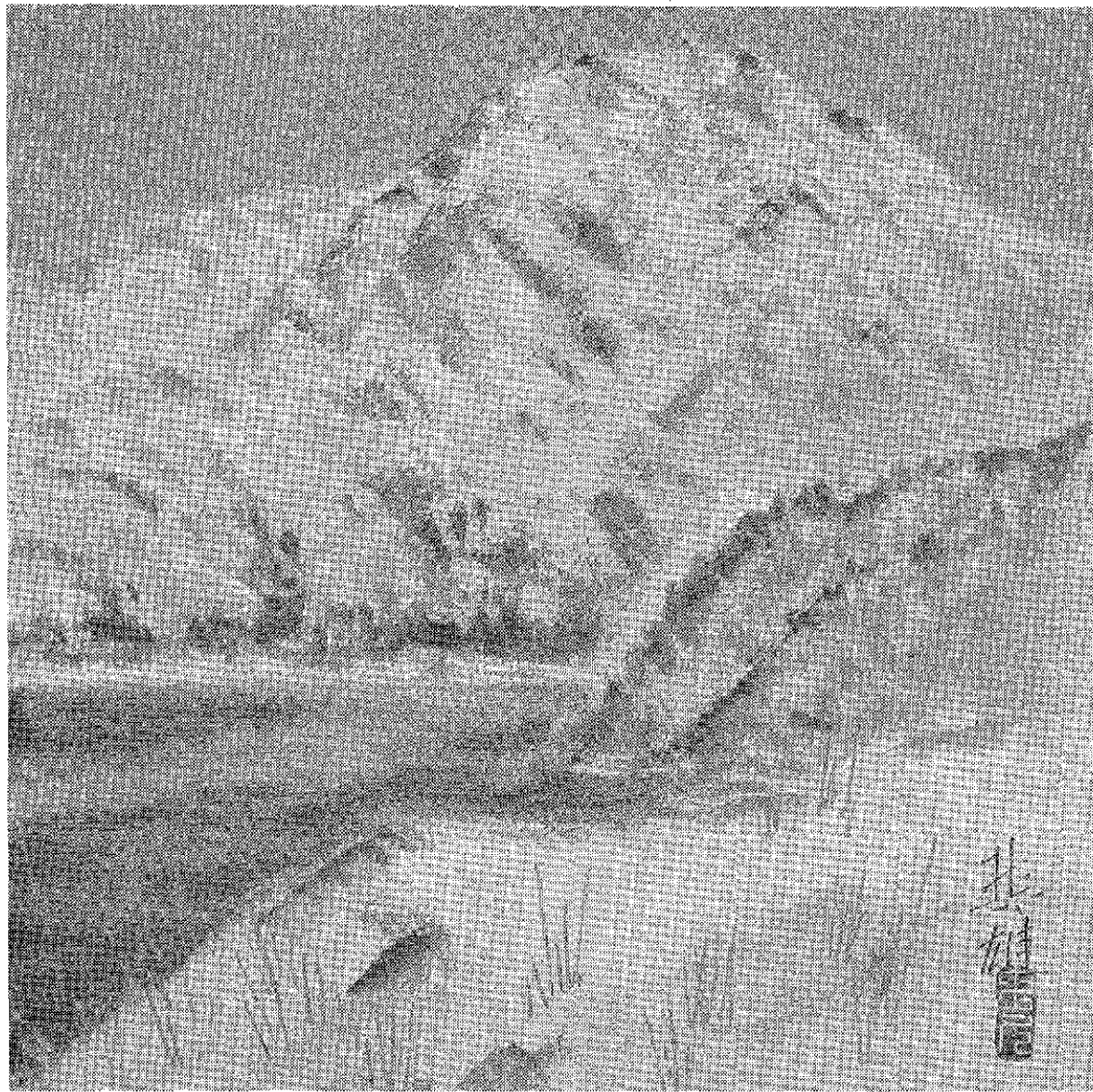
発行所 新潟県公民館連合会

【新潟市川端町2-9・県林業会館内】

【電話・新潟(0252)24-6073】 【振替新潟4094】

発行人 会長 石井耕一
編集人 事務局長 本田 清

【定価1部 70円 年共 840円】



加治川上流

加治川上流の四季折々の風情は、私たちの心を魅了させてくれる。東方にそびえる焼峰や、飯豊連峰と湖のおりなす景観は格別な味わいがある。とくに新雪をいただき、朝日に映える焼峰の動せぬ姿と、きびしい湖面をのぞかすせきとめ湖は、人の心をとらえてはなさない。

加治川は源を飯豊山系に発し、内の倉川、姫田川、坂井川などが合流して日本海に注ぐ流路延部六五キロ、流域面積三四六平方キロの二級河川。その上流水源地の新発田滝谷内の旧赤谷鉾山の採鉱跡に加治川治水ダムがある。昭和四一年、四二年にかけて続いて起きた加治川大水害に懲りて、治水一本に重点が置かれつくられた異色のダムである。

下流の内の倉支流には内の倉ダムが造られ、胎内川西ダムなどと合わせて統合管理システムがとられている。これによって下流の新発田市、豊栄市など二市四ヶ町村の洪水の心配がなくなった。

名所加治川堤の桜も復活されようとしている。(新潟県百科事典による)

(絵・藤田龍雄、日本美術院院友、新発田市文化財審議委員)

公民館建築に116億1,000万円



国庫補助初の満額達成 生涯教育推進事業補助は微増

昭和五十四年度の公民館施設費 第一日の陳情日経終了後、第一国庫補助一六億一、〇〇〇万円内本結果を待たず。その夜、および生涯教育推進事業補助の償還は非特明るいきみし。二八億八、四〇〇万円の表現をめぐり、組織をあげての予算増額運進していた。みんな晴れやかな顔、施設は、すでに前年十二月二十一、〇〇〇万円、東京赤坂のプリンスホテルで開催された第27回全国公民館振興大会のデモストレーションをもって、ひとつのピークとしていたが、施設の満額達成は、はじめてのこの予算編成期に合わせ、例年同様、前年度当初七億四、四〇〇万円に実施されてきた全国一体感勢、〇万円に対して六三パーセントに達する陳情運動は、与党総裁の交代という政変劇のありをうけ、年明けの五日から再開された。ことしも東京都平河町の都市センターを運動本部として公民館おとひ公振連の主席部が顔をそろえ、全国から馳せ参じた公民館関係者は百名を超えた。たまたま各ブロックごとに陳情書を編成、国會議員、大蔵省、文部省等の関係方面に対し陳情行動をつづけた。

本県からは石井会長以下、四市町村長を多く、助役、教育長、館長、社会教育課長など十五人が参加、石井会長は関東甲信越ブロックの代表として、また全六連理事として活躍した。

この結果、第2次陳情団の東京にストップがかかれ、運動本部は明るい顔がそろい、文部省から馳けつけた中西議員、伊藤社会教育官とも万々三唱ののち解散した。

なお、昭和五十四年度に公民館を建築する予定の本県市町村は次のとおり。

×	×	×	新潟市、新発田市、善町、塩沢町、柏崎市、小千谷市、糸魚川市、白根市、黒埼町、能生町、青海町、朝日村、以上十二市町村。
---	---	---	--

公民館施設費国庫補助

	(53年度補正を含む)	(54年度初当)
総額	90億1,600万円	116億1,000万円
1館当たり補助	2,200~2,400万円	2,700万円
対象館数	382館	430館
公民館を中心とする業補助生涯教育事業		
総額	20億6,500万円(53年度)	20億7,500万円(54年度)



(文部省・伊藤社会教育官の経過報告を喜色) 満面できく運動本部一同



昭和のはじめ、ついで陸地を訪れた時、「いきなり」で絹を織っていたお母さんや、お嬢さんが「昔は機織の音がする女だ」と話したと語った。当時、織物の時代は、お嬢さんや女性にとって最高の職業であった。それが、下げて義務教育を入れた高



校の各種学校化を進められた。そのため「一九九」も満足にできなかった。かえって織物ができないことが誇りとなってきた。学校教育は社会・文化の進歩にとって大きな原動力であるが、同時に学歴社会が形成され

母ちゃんたちの瞳

伊里修一

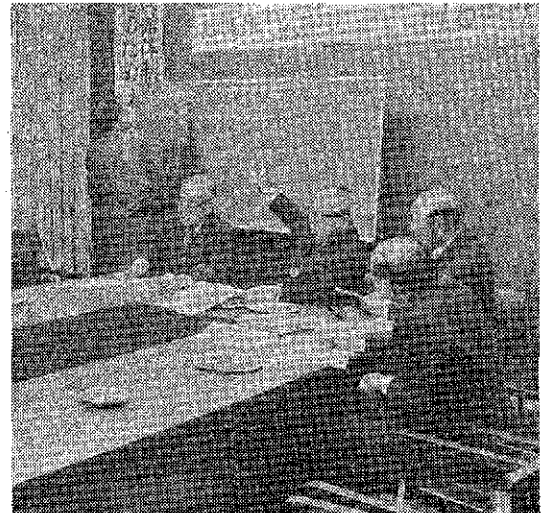
率が高三パーセントといわれる中で「お母さん」をどうするか、の論議は深刻である。国は高校の学習指導要領を修正して対応して来たが解決策とはならなかった。高校の教育水準の引き上げと義務教育をとり入れた高

地十日町が中心となつての任

元日副委員長 豊栄中学校長



(最有力の理解者のひとり森喜朗と党文教委長に陳情する一行。右は本会会長石井耕一(豊栄市長))



(運動本部で号令する全公運の主脳。手をあげているのは田村会長。その右は服部公振連会長)

色紙(表紙絵)募集

本紙の表紙をかざる絵を送ってください。公民館の絵画教室での傑作、利用グループの中で絵をよくする人の作品など、なるべく色紙でA4位置で書かれたものを期待しています。

人間のめざすもの



石井耕一メモ⑤

二年がかりで「ユニシニ」と社会教育に力をつくした。県社会教育委員会では、今度は「二十一世紀の社会教育」にとりかかっている。各界代表のメンバーが「出陣宣言」を掲げた。だからおもしろい。中のいくつかをひろってみたい。

二十世紀は学校教育の歴史であり、二十一世紀は社会教育の歴史となる。社会教育イコール生涯教育でなく、生涯教育全体の中に学校教育、家庭教育、社会教育がある。

学校教育は、各人の能力にふさわしい、その選択による学習していく、いわゆる無学年制が考えられ、学、社、家の区別が判然としなくなる。

明治・大正時代は、家風による教育があったが、今は家庭でもやらねばならぬことも学校でもやらねばならぬ。学校には限界がある。社会教育の受け持つ時間・空間的な役割が拡大する。

今のよき学校開放でなく、学校開放は、時間世による学校教育にも社会教育にも

使用される。地域におけるものだけが社会教育でなく、たまたま、職場におけるものなどにも視野がひろがる。教育費用は公費だけでなく、受益負担もとり入れ、内容の高度化と参加者意識の高揚が必要となる。

学習要求にも強度・深度の問題がある。一般教養とがレクリエーションなどは、強度があっても強度がない。アカデミックなもの、税金法律などに期待するものは、高負担でもないだろう。公民館事業はいっそう多面的な要求をとらえ、種別によって参加者負担を増し、運営の中で還元する。

最も問題なのは、人間どうなるか、どういう人間をどうして教育するか、ということであろう。かごとで中教審が、一期待される関係を発表して多くの批判を浴びた。田中総理の「工の大切、五つの反省」も関係である。

いすれも立派なものだが、ゆがんだ教育の「フルター」をとおして見ると、多いかたは、教師も、親も、社会教育の指導者も、期待すべき人間像をもっていない。

この討論は、今後も続けられる。(本会会長 豊栄市長)

公民館経営のあり方

④ 朝比奈 博氏

講演
要旨

3. 日本の将来について。 20%

このように、男子成人の意識は、職業と生活と社会のことに代表されているのである。

とすれば、男子成人は、その解決の場や機会がどのようなところであろうとも、その生活課題や地域課題の解決をのぞんでいると言えよう。

若し、公民館が男子成人層を公民館に集めようとしているならば、それは機会や場でなく課題であることが理解されねばならないのである。

さらに前述した意識調査の中で、「いまあなたは、職場や地域社会の中で、どんな役割を分担していますか、また何かの役職をお持ちですか」という問に対して69%が、何等かの役職や役割を果していると答えている。

とすれば、これからの公民館経営における男子成人層(青年を含めて)に関する事業は、これらの役割意識を、課題解決のための地域活動につなげて、行動化(ロール・プレイング)することが重要な鍵と言えよう。

いわゆる、コミュニティ研究会、地域づくり委員会、コミュニティ推進協議会といったもの、組織化と、その活動ということが、公民館の事業として設定されねばならないのである。

その第三は、行財政を含めた管理体制と、その適正化の問題である。

管理の適正化は、公民館経営における基盤整備の課題である。

館長は、「経営責任者」として、常勤専任であることを必要とするのはもちろんであるが、たとえ非常勤であろうとも、経営の責任者として、館長を中心とする人的、物的条件を維持保全する体制を確立する必要はますます言うまでもない。

館長の職務は礼教法27条の2に規定されているとおりであるが、単なるハンコ押し屋ではなく、予算を確保し執行しつつ、自ら教育事業計画を展開するために必要な権能を手にして、全責任をもってその実施にあたらねばならないのである。

とりわけ「地域づくり」の課題に関して、公民館運営審議会の活用は、経営責任者として最大の努力を払うべき仕事である。

しかし、率直に言って、公民館運営審議会の活用や、活動の現状は、形式化され、形骸化されていると言っても過言ではない。

もちろん、公民館運営審議会は、館長の諮問機関として、「公民館の事業の企画、実施について調査、審議する。(29の2)ことが任務であるとする程度のことは行なわれているであろう。

だが、「公民館運営審議会は、住民と公民館のかけ橋である。」「公民館運営審議会は公民館経営の参謀である。」「また「公民館運営審議会は、公民館経営の羅針盤である。」「などと言われながら、実態は、華かに時代のフットライトを浴びる公民館のカゲに咲く仇花と言ったら叱られるであろうか。

館長は経営責任者

講師・朝比奈博氏の横顔

東京朝日新聞記者(5年) 明治乳業(株)労務課長(12年)・日本社会党静岡県連書記長(3年)・静岡県地方労務員(4年)・静岡県公連事務所局長(15年)

公民館運営審議会は、公民館の経営の1部門であるばかりか、経営ブレインなのである。

さらに重要な点は、地域における人々の生活課題ないし地域課題を、公民館の経営に反映させる代表なのである。いわば市民参加の一形態なのである。

したがって、法第29条第2項における「館長の諮問機関である」という規定においても、諮問がなければ、審議会を開いて答申しなくても良いという考え方があがるが、それは誤りである。

諮問とは事実関係で言えば、口頭でも文書でも、あることがらについて意見をきくということである。

したがって、年度当初、公民館の事業計画の説明を聞くだけに終ったとしても、この諮問と答申という相関関係は生き続けるのである。

したがって、それらの計画に基く事業についての調査や審議という行為は存在し、経営や事業について答申の必要があれば、審議会の合意を経ればできるのである。

単なる机上の資料調査では、その役割は果せないのである。

とすれば、日常における公民館運営審議会は、学習者の諸要求を汲みあげるボランティアの役割や、その学習者の評価をもとに公民館に関する行財政の確保についても、積極的に働きかけることが可能であり、違法でも越権でもないのである。

公運審制度が、諮問機関という一種の参加制度であるからには、地方自治の本旨の半面を成す住民自治の趣旨を具体化した形態であるからである。

以上、これからの公民館経営のあり方について、当面する課題のなかから、組織、事業、行財政の三つについて、本格的な視点だけについて追求してみた。

「地域づくり」という課題には、いままでの公民館経営の在り方から見れば、その需給と供給という教育的条件には、なお多くの研究の余地がのこされ、問題も山積していると言えよう。今後の研議に期待したい。

(完)

★おわりに

切かく与えられた機会であるだけに、欲ばり過ぎたきらいもあり、恐らくこの主張の半分も意を尽せぬだろうと予想し、手酷しいご批判とご教示をいただくために、レポートを通して、他日補完や修正を期待したわけです。頭の中をよぎる発想を文脈や順序を度外視した一萬千里の書きなぐりをご寛容いただきたいと思ひます。多謝。

公民館関係法令・解説

公民館長・公民館主事・公民館職員・公民館運営審議会委員・社会教育主事・社会教育委員・教育委員会関係者・公民館を利用する人・社会教育関係団体関係者等の必携の書として広く活用されています。

公民館関係諸会議にご使用ください。

◎内容

教育基本法・社会教育法・社会教育法施行令・公民館の設置及び運営に関する基準規程・通達「公民館基準の取扱いについて」解説つき。

A 5判34ページ 1部 250円(送料実費)

◎お申し込み先

〒951 新潟市川端町2-9 県林業会館内
県公民館連合会事務局 電話 0252(24)6073

必読の書

秋田の生涯教育

生涯教育、は理論ではだめだ

小畑勇二郎 著

秋田県生涯教育推進本部長
秋田県知事

B6版 上製本 250ページ
定価 1,000円 円160円

ユネスコで生涯教育が公式に討議主題となった1966年以来、我が国においても、理論の研究がさかんになってきたが、著者は全国にさがかけて生教育の実践活動の推進をはかり、「秋田の生涯教育」という一つのゆるぎない体系をつくりあげき。今や、この秋田方式にならない、多くの自治体が

推進をはかってきている。

この書は、提唱以来、7年の成果をまとめた貴重な記録であり、さらに生涯教育を伸展させるための道標として読者の共感が期待される。

主な内容

生涯教育の提唱／生涯教育のすすめ／生涯教育とは／生涯教育を進める機構／生涯教育の体系化／生涯教育と学校教育／生涯教育と公民館・図書館・博物館等／いろいろの事業を通して／盛り上がる力／今後の課題／その他

発行所

財団法人 全日本社会教育連合会推せんのことば

- ・秋田県の生涯教育は、実践活動130万県民が当たっている。
- ・「その活動のリーダーである小畑知事が幅広い知識と豊富な経験を集大成したこの本は素晴らしい」

(甲南女子大学教授 藤原 英夫)

- ・本書を手にした人は、実力家の課長や部長にポンと肩をたたかれたよむに、啓発されたようになるだろう、ということはいわゆる読みごたえがあるということだ

(お茶の水女子大学教授 森 隆夫)

申込先

〒951 新潟市川端町2-9 県林業会館内
県公民館連合会
(TEL 0252-24-6073)

地域づくりに果す

「地域づくり」の課題に対して、これからの公民館経営が取り組むべきことは、まずこれらの多種のグループ・サークル間における違和感や断絶を、より広い範囲と、より必要な課題において調整し、その合意と協力をつくりあげていく。機能の発揮とリーダーシップを確立することである。

いうまでもなく、この合意と協力は、それらの集団のコミュニケーションと相互作用にまつことと、意図的に「学習必要」に点火していく触発的役割を果すことである。

自主性干渉とか、自発性尊重とかを「かくれみの」にする姿勢を捨てて、教育的観点に立って「投げ込み方式」による積極的に働きかけることが必要となる。

その方法はいろいろ考えられる。例えば広報、館報などによること。すぐれて推進的な役割を果すボランティアの開発と組織的活動、あるいは、利用者対話集会、生活相談などの開設である。

要約すれば、危険と隣り合せている生活環境の諸問題や、内在し気づいていない気がかりなこと、相談相手のないまま悩んでいることに火をつけることである。言い換えれば、アコヤ貝と真珠の関係で、アコヤ貝に異物を投入し、それとの闘いの中で、見事な真珠が創られると言った方式なのである。

その第二は、公民館経営の目玉である事業の企画、展開という問題である。

きょう、社会的要請である「新しいコミュニティづくり」としての公民館に対する期待の合唱は日増しに高まりつつある。

そして、それを裏付ける各種各様の事業が展開されている。

例えば、ふる里の見直しをめざす事業をはじめとして、郷土の歴史や文化の再発見、文化財や伝承文化などに係る学級や講座の開設。さらには、祭事などの行事や、民話や昔話しの集録や刊行などがされている。

「公民館の在るべき姿や今日的指標」が論及している。「集会と活用」、「学習と創造」、「総合と調整」という役割に立って努力がされているのである。

だが、問題を「地域づくり」という課題に照準して考える場合、果してこれだけで良いのであろうかと、一抹の不安を禁じ得ないのは私だけであろうか。

その不安の一つは、永い間社会教育や公民館が渴望してきた男子成人層の問題である。

トロ抜き社会教育といわれ、すしの中で最も脂ののり切ったトロのないことをもじった批判である。

「地域づくり」にとって不可欠な条件もまた男子成人の参加である。

公民館の学習にこそ参加しないが、働くことを本命とし、妻や子供をまもりながら、現代社会の発展を支えているのは他ならぬ男子成人なのである。

高令者や婦人層に開かれた公民館も、男子成人層において閉ざされた公民館では、とても地域づくりは不可能である。

では、どうすればよいのか。

私の県で過般実施した富士市一円の35才から55才までの男子成人層に対する意識、実態調査の結果は、いみじくもそのことを明らかに示したのである。(標本1,500、面接調査)

設問、「あなたは、現在の暮らしの中で、一つ気がかりな問題はどんなことですか。」

- 答1. 自分の職業に関すること。 22%
- 2. 子供の教育に関すること。 20%

経営ブレインの活用を

県公民館振興市町村長連盟加盟状況

(54. 1. 31日現在)

16市長・32町長・14村長 計 62市町村長

まだ未加盟市町村長は、ご加盟いただきたく
お願い申し上げます。

名立町下名立前分館

実践記録シリーズ

48

地域とともに歩む活動

全区民の創意生かして

「実践記録」のあれこれ、いろいろと反響を呼んでいます。あなたもぜひ書いてみて下さい。



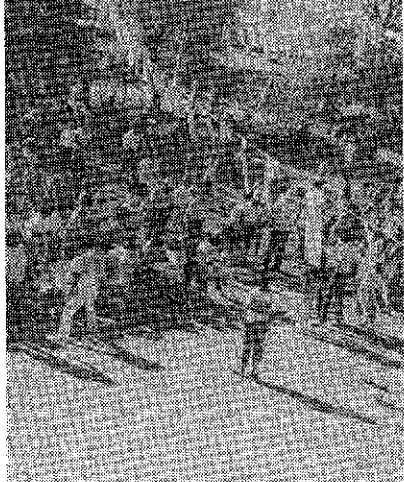
(工夫をこらした七夕かざり)

名立川をさかのぼること三軒、町部とへき地の中間位置し、十三郎落、二五七世帯の当分館は、何をしても、地域、学校、婦人会、青年会、老人会、子供会と、帯に一体となって、事業を進めなくてはならない。当地は、昔から教育に対する情熱は、伝統として現在も伝わり、住民は、このことに対して、自信と誇りをもってゐる。しかし、時代の流れとともに、過疎現象には打ち勝つことには、不可能である。名立川の両岸は、すく山となり、少ない耕地のため、出稼をよまなくされ、残された主婦は、工事関係の仕事で、現金収入の途の求め、いそがしい生活に追われている。しかし、自分達の手で、もう一度地域をよみがえらせる運動、町も、自分達の手による地域づくり運動の必要性を痛感し、この活動に対する意識や自覚が高まってきている。次にその活動の一端を紹介いたします。

地域に伝わる各種行事の理解とその活動

地域に残された行事も、不活化な現在、新しく各種行事の意義を理解し、この行事を中心とした人達により、郷土を愛する活動が進められている。例えば、田野上部落に残る八月の七夕祭りの復活は、地域の古老への敬意と指導協力によって、小中、高校生に教えられ、青年会、町人会の応援によつて、一つ一つ苦心し、苦悶し、苦心を重ね、長い期間、出稼をよまなくされ、残された主婦は、工事関係の仕事で、現金収入の途の求め、いそがしい生活に追われている。しかし、自分達の手で、もう一度地域をよみがえらせる運動、町も、自分達の手による地域づくり運動の必要性を痛感し、この活動に対する意識や自覚が高まってきている。次にその活動の一端を紹介いたします。

地域に伝わる各種行事の理解とその活動
地域に残された行事も、不活化な現在、新しく各種行事の意義を理解し、この行事を中心とした人達により、郷土を愛する活動が進められている。例えば、田野上部落に残る八月の七夕祭りの復活は、地域の古老への敬意と指導協力によって、小中、高校生に教えられ、青年会、町人会の応援によつて、一つ一つ苦心し、苦悶し、苦心を重ね、長い期間、出稼をよまなくされ、残された主婦は、工事関係の仕事で、現金収入の途の求め、いそがしい生活に追われている。しかし、自分達の手で、もう一度地域をよみがえらせる運動、町も、自分達の手による地域づくり運動の必要性を痛感し、この活動に対する意識や自覚が高まってきている。次にその活動の一端を紹介いたします。



(区民総出の体育大会)

婦人会活動

婦人会活動
婦人学級を中心としたこの活動は、日々学習を深めながら、連帯意識を育く、地域に奉仕することによって、婦人の地位向上を日ごと進めている。敬老会を開き、自ら老人を大切にすることによって、嫁と姑との良い関係をつくり出し、姉妹会を開き、互いに助けあうことを生かして、町の文化的行事に参加し、そして

この外に森折居、池田部落等では、「帰郷」の行事を長い年月守り育ててきている。杉野湖、淵沢、田野上部落では、川東用水を開いた郷土の先人、竹田柳兵衛をしのんで、小正月に藤玉を飾っています。このように行事を継いで、集まり、語り合い、働き合う中に、郷土に愛と敬意が盛りあがり、地域を育てる、大切な活動となっている。

最後に、聲書による晴れエッセイの冬の生活の中から、新年展望会を開催し、談話し、囲書し、将棋に、カルタに打ち興しながら、全区民の総意におしとられた公民館活動がなされている。

この外に、分館図書部を中心とした親子文庫があり、読書を通して、親子のふれ合いを大切にしながら、地域に伝わる伝説、昔話しを思ひ起させ、話し合い活動が盛んになっている。

(名立公民館 下名立前分館長 高橋芳郎)

おめでとう
ありがとうございました。お返事をありがとうございました。お返事をありがとうございました。
お返事をありがとうございました。お返事をありがとうございました。お返事をありがとうございました。

両津市鷺崎分館

地域の概況

昭和二十九年に両津に合併されたが、それ以前は旧内海府村であり、閉ざれたへき村として長い歴史をもっている。何しろ市の中心部より大佐渡山脈が海に迫る海岸線を北に三十キロ。昭和四十一年バス路線が開通するまで、三時間余の船便は全く最果の地であり陸の孤島そのものであった。このような厳しい自然の中で育った閉鎖的な考へや、各部族の根柢ない等の消極的な甘んじ考へでいてはならない。少くとも公民館が地域づくり、人々へのま、そのわらいとすゝめるなら、その現実の課題に真剣にとりあふ、住民の理解と十八年頃から大規模な各種団体の協力を得ながら、時代を担う若者たちを夢と希望を与えようとする獅子舞りのための活動を展開しなければならぬ。

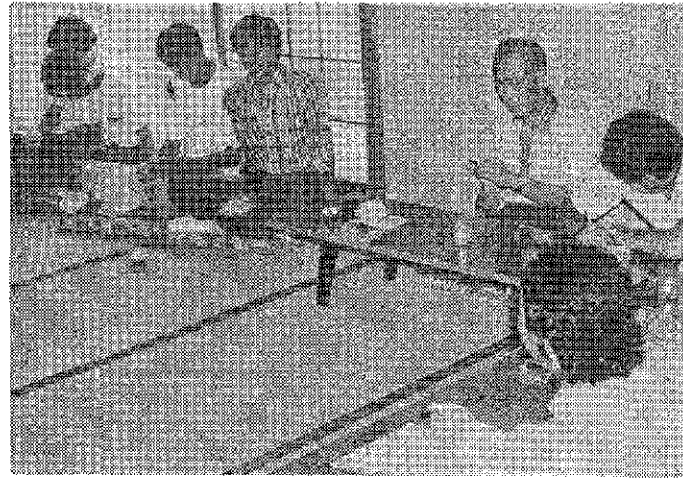
活動の概要

以上のような課題をふまえて、一挙に打破すべく新しい村づくりが出発し、道路の開通促進、漁港の整備、孤島解決策等、積極的にとりくむ体制を築き、また教育文化面では、小・中学校の発足につながる書真事となること



後継者との座談会

若者たちも率直な意見



(若者が集まった後継者座談会)



(精霊流しの花々)

の活動の場として、鉄筋三階の鷺崎を期待している。次に本年度でこれ迄たちと次のようなテーマで話し合いの場をもった。

◎後継者座談会(八月)

盆の帰省を機会に、高校・大学・職場と旧郷土を離れている若者今一番やっほしいことは、自分安であった。しかし帰省者のほと

◎精霊流し

従来は各家庭で行っていたもの

など全員が出席され、まもって大きな成功であった。冷たいものを飲みながら現代らしい率直な発言は「漁業の近代化で新しい職場がほしい」「海灣、観光の面からも水資源の確保が急務だ」「昔ながらの伝統行事を盛んにしてほしい」これ等の発言は核心を突いたものであり、地域の切実な問題として強く評価された。話し合いによって住民との心のつながりを深めることが出来たので彼らの激励の意味も含めて今後継続したい。

◎精霊流し

従来は各家庭で行っていたもの

の時代と共に醸成されてきたもので、これをなんとかしようとする事で公民館があらあけた。船の材料その他を購入し、老人クラブと子ども会の中学生の合作で八艘の船を準備して盆の十六日午後五時のサイレンを全国に告げる人たちが供物を持もつ公民館役員が先導で船の行列が繰る。観音の香りが漂う中で老々今三つの祭典と鐘の音は祖先の霊魂を慰めるにさわしい郷土音楽が宗教的な行事として今後とも大掛りにした。

両津市鷺崎分館長 山田 国雄

「私と公民館」

「実践記録シリーズ」は大変好評をいただいたが、「実践記録」と同時に利用者の方々から書かれた「私と公民館」の原稿を募集しています。

みなさんの公民館で活躍しておられる方々に依頼していたが、ご協力を願うたいたいと存じます。

掲載の分には、それぞれ記念品をさし上げていきます。

原稿募集

編集部

あの頃のこと

記憶のなかから(1)

山本 醇

◎はじめに……私が公民館職員となり場所が一方所であったとしても、十七年の間に、あの頃のことを思い出すにしても既に約二十年ほど過ぎており随分遠い昔のような気がする。このなかから私の記憶をたどりながら思い出します。

◎第一話 酒の飲めない公民館
私が樺太から引揚げて役場の配給係として就職したのが二十六年で、まず最初に感じたことは「佐渡と佐渡」とは酒を飲む機会が多かったことだ。



真野町公民館(旧役場)に接した、学校の古材を使って増築された事務室二、会議室の施設が最初のもので、その後不用になった建物(元料理店)を改修して始めて公民館らしい施設としてスタートできたわけだ。

役場が開かれる会合はさまざまで酒が出るし、議会で定例会終了後は必ず宴会が始まる。役場で実施した行事の後には手伝いの職員に酒が出なければその係はケチだとされる。各種団体や部落などでも大同小異だったと思う。こんな姿を見て私は、「真野町来ないと思っただけだ。早速館長と協議し、当時のマシヤさん

当時佐渡では本格的な新築公民館をもつ金井町を除き全町村の殆んどが借り公民館の多くなかで、独立した施設を持たないまま来たばかりだったと思ふ。このように公民館の独立を機会に、施設のなかで、一切酒を使用しないことにするにはこの機会を逃しては出館長と協議し、当時のマシヤさん

に協力を求めた。マシヤさんも「それはいいけど、実施してはどうか」と養意を表してくれた。なにでも出費が肝心と思ひ新しい開館式には一切酒無しの一筆十山の献菓子の茶話会を終った。酒のある祝宴を予想して出席した職員さん達が手持ちぶさたで帰ったことを想い出すと今でもお

かしくなる。祝宴にかける費用を屋夜一同の映画会を聞いて多くの町民に言はれたことを覚えているが今でもよかったです。このようにして出た酒のな

「町民が利用するのにならぬか」と抗議の音が有力者を遊ばせて若うたが、それも理解してどうにか努力して断固として初心を交えなかつた。二、三年後には殆んどの町民が私の考えを理解してくれようである。当時の分館長の〇さんは「あの当時の公民館は会議のやわらかい人柄は、公民館人へ出席しても一度も酒が出なかつた」と今でも会うたびに私に話をしていて。

昭和三十三年に公民館を転出したからは、同収入役、助役と町職後また町教育長に任用されるなど、その実直と有能さは衆目の認めるところ。おとしの十一月に教育長を辞してからはもう白濁の毎日。まだまだやれる人。

「町民が利用するのにならぬか」と抗議の音が有力者を遊ばせて若うたが、それも理解してどうにか努力して断固として初心を交えなかつた。二、三年後には殆んどの町民が私の考えを理解してくれようである。当時の分館長の〇さんは「あの当時の公民館は会議のやわらかい人柄は、公民館人へ出席しても一度も酒が出なかつた」と今でも会うたびに私に話をしていて。

公民館・社会教育関係者の座右の六法!

社会教育行政必携

昭和54年版

文部省内社会教育行政研究会 編集
発行 第一法規出版株式会社

刊行のことばから

昭和52年版の刊行以後、関係法令が改正され、諸調査が実施されこのたび収録法令を整理するとともに、例規統計資料等を追加し内容の充実を図り、ここに昭和54年版を刊行した。

新書判/装美本/総頁 903頁
定価 1,800円(〒160)

▶おもしろ内容◀

- 第一章 総 則
- 第二章 行政組織
- 第三章 行政職員の養成・研修
- 第四章 施設の設置・運営
- 第五章 事業の実施・援助
- 第六章 手法の開発・改善
- 第七章 財務・税制
- 第八章 補助金・委嘱費

申込先 〒 951 新潟市川端町2-9
県林業会館内
県公民館連合会
(TEL 0252-24-6073)

資料 歓迎

公民館で作成した資料や文芸作品集または録音などをご送付くださいませんか。県内の皆さんへも紹介してまいりたいと思ひます。

編集部

投稿 歓迎

感想文でも結構、折にふれ気軽にペン走らせてください。採用文には粗品を差し上げております。

あとがき

NHKテレビ「総理と語る」で大平総理が「公民館」ということばでひとことだけ発したの聞きました。
大平総理のいわゆる田園都市構想の一環として、公民館などの文化施設の存在意義を認めての発言と受けとめることがありますが、それにも歴代の総理が政策を語るなかで「公民館」という発想をもつものほまなくゼロにひとしかったことを思うと隔世の感がいちまします。(本)